

京都の福祉

発行 京都府社会福祉協議会

本紙は、共同募金の配分金によってつくられています。

2013

1

No.526



笑顔の写真館

笑顔あふれる素敵な生活

- 主な記事
- 1面…もえくさ
 - 2～3面…年頭のあいさつ
人権擁護啓発ポスターコンクール
 - 4～5面…ゼスト・ざ・ほっとはあとーほっとはあと文化祭
 - 6面…福祉サービス苦情解決セミナー
 - 7面…夢中! 熱中! ふくしびと
 - 8面…京都府社会福祉協議会からのご案内

もえくさ

新年あけましておめでとーございませぬ。

「京都の福祉」をご愛読いただきありがとうございます。今年も内容の充実と読んでもらいたいやすい誌面づくりを心がけてまいりますので、引き続きよろしくお願ひします▼昨年末の総選挙では自民党が圧勝し3年ぶりに政権を奪還したが、我が国の新しいリーダーには今度こそ国民の期待が失望と怒りに変わらないう、閉塞感を打ち破り、誰もが元氣と希望が持てる社会の実現に向けてリーダーシップを発揮していただくことを願っている。特に、喫緊の課題である社会保障制度改革については、新政権がどのような制度再構築の道筋を描くのか、福祉関係者はその動向に注視し、地域の声をしっかりと発信していきたい▼師走の街に選挙カーが駆けめぐると、久しぶりに学生時代の友人が20人ほど集まった。全員選歴を少し過ぎ白髪やメタボが気になるが、みんなまだまだ元氣、若いままであった(「気持ちは」という但書がつく)。時間と気持ちに少し余裕ができたことから古いギターを出してきてバンドを始めた者、野菜づくりや青春18きっぷを駆使して旅行を楽しんでいる者など、それぞれが60歳代なりの「青春」を楽しんでいる。まもなく「高齢者」といわれる年齢(一般的には65歳以上)になるが、一致しているのは高齢者になるという自覚はない。若い人から見ると一番扱いにくい高齢者になるのかもわからないが、まだまだ老け込込むつもりはないということ▼現在、我が国の65歳以上は3,000万人以上、2035年には3人に1人が65歳以上になると言われているが、内閣府の60歳以上を対象とした調査でも多くの人が高齢者となっても仕事をすることを希望している。昨年希望者全員の雇用を65歳まで企業に義務付ける「改正高齢者雇用安定法」も成立したが、元氣な高齢者には社会や経済を「支える人」としてできるだけ長く働いてもらうことは我が国の成長戦略、社会保障政策の観点からも、更には高齢者の健康や生きがい対策にもつながる。高齢者雇用の拡大は若者の雇用を奪うという意見もあるが、高齢者には若者にはない豊かな経験と熟練の技能がある。うまく役割分担すれば若者の雇用を圧迫することにはならないのではないかと▼ただし、「支える人」であっても、働き続ける意欲を持続させるには健康問題や家族の介護など、個々の事情にあわせて労働時間や就労日数など働き方が選択できる柔軟な就労支援策や能力や技能に応じた処遇、働きたくても働けない人への福祉施策の充実も重要である。いつかは「支えられる人」になる時期が来るが、元氣な高齢者はそれまでは社会のためにもうひと踏ん張りお願ひしたい。今年も熟年パワーで頑張ろう。でも身体は正直キツイ。今年もよろしくお願ひいたします。△T・M△



安心と希望の持てる 地域社会を築いていくために

京都府社会福祉協議会 会長 柏原 康夫

新年あけましておめでとございます。
ます。

昨年末、慌ただしく衆議院の解散、総選挙が実施され、新しい年を目前に新内閣が動き始めました。これからの政治や政策の方向性については未知数の部分もありますが、社会福祉や社会保障の充実が重要な課題であることに変わりはありません。

また昨年には、社会保障制度改革推進法をはじめとする「社会保障・税の一体改革」関連法が成立しました。これによって、消費税増税により、社会保障制度を維持するという今後の方向性が示されました。また、厳しい雇用情勢を背景に、生活困窮者を支援するための体系づくりや基盤整備を目指した「生活支援戦略」が検討されています。私たちは、今後の動向を注視すると同時に、福祉関係者とともに利用者本位の必要な

提言を現場から発信していく必要があると考えております。

孤立死や自殺の増加、ひきこもりなどの社会的孤立、後を絶たない虐待など、家族や住民同志の関係の希薄化によって、さまざまな生活課題が発生している昨今、社会保障制度の充実とともに、地域で支え合う新たな仕組みづくりが求められています。また、東日本大震災の発生以降、地域におけるさまざまな「つながり」や「絆」の大切さが見直されています。このような時だからこそ、これまで地域の潜在化しているニーズを発見し、解決に取り組んできた福祉関係者には、その経験や力を発揮するとともに、地域住民の方々や行政、企業、NPOなどの幅広い「つながり」を構築していく中核的な役割が求められているのではない

でしょうか。

本会におきましては、昨年、第3次中期計画を策定し、「孤立を見逃さない地域づくり」「生活困窮者等の自己実現と自立支援」「府民の生活を支える権利擁護」「福祉サービスの人材確保・定着・育成」「自立した生活を支える「絆ネット」の推進」の5テーマを掲げ、計画1年目をスタートさせました。府民が安心と希望をもって暮らし続けることができる地域づくりを実現するために、みなさまのご理解とご協力を得ながら、第3次中期計画の着実な実施に努力してまいります。

本年も昨年同様、ご指導、ご協力をお願いいたしますとともに、新しい年の始めにあたり、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。



平成24年度 人権擁護啓発ポスターコンクール

京都府社会福祉協議会会長賞が決定しました!

人権擁護啓発ポスターコンクールは、府内の小・中・高等学校の児童・生徒が、人権をテーマとしたポスター（絵画）の制作を通じて基本的人権について一層理解を深め、人権尊重の精神を養う機会とするため昭和59年度から実施されています。

今年度は小・中・高の中から188校5,369件の応募があり、昨年度に比べると400件近くの増となりました。

そのなかから、向日市立第4向陽小学校2年の「三崎 結衣(みさき ゆい)」さんの作品が、京都府社会福祉協議会会長賞に選ばれました。

作品は京都府ホームページでご覧になることができます。



京都の持つ「力」を生かし、「オール京都」で明日を切り拓こう

京都府知事 山田 啓一

府民の皆様、あけましておめでとう
ございます。

昨年は、ロンドンオリンピックでの
京都府ゆかりの選手の活躍や、京都大
学 山中伸弥教授のノーベル賞受賞な
ど、府民にとって大変誇らしい出来事
のあった年でありました。その一方で、
痛ましい交通事故の発生や南部地域で
の豪雨被害、停滞する経済と厳しい雇
用環境、生活保護受給世帯の増加、原
子力発電所の安全性をめぐる問題や節
電対策など、多くの課題が生じた年で
もありました。

昨年の衆議院議員選挙では、エネル
ギー問題、消費税増税問題、TPP交
渉参加問題などを巡って国論が二つに
割れ、また領土問題など「対立」が目
立った年でもありました。だからこそ、
今年「和をもって貴しとなす」、こ
の言葉を実践する年にしたいと思いま
す。困難な課題が多く、難しい判断が
求められますが、巳年となる今年は、
蛇行することはあっても、着実に前に
進んで行きたいものです。そのために、
私もこれまで以上に「熟議」し、
その上で「判断」し、みんなが心を合

わせた、困難に向かって「行動」して
いかなければなりません。

幸い、京都には、さまざまな機関
や団体、そして府民の皆様が連携し、
協力して大きな力を発揮するという
「オール京都」の風土があります。
この「オール京都」による取り組み
は、昨年も「古典の日」の法律制定
や、「和食」の世界無形文化遺産登
録に向けた活動、「京都産業育成コ
ンソーシアム」による中小企業支援、
高齢者の方々が住み慣れた地域で安
心して暮らせるよう「するのための」京
都市域包括ケア」など、すでに多
くの分野に及んでいます。

また、地域に暮らす皆様が協働し
て地域づくりに取り組み「地域力再
生プロジェクト」は、この六年間で
三千件を上回り、身近な道路などの
改善を府民の皆様の提案により行う
「府民公募型安心・安全整備事業」
は、この四年間で四千五百件にも上
るなど、府民の皆様の協力によって
地域を豊かにする取り組みが進めら
れました。

府民の皆様お一人お一人が、夢と

希望を抱き、生きがいを持って暮ら
せるような京都をつくっていくため
には、こうした取り組みを、府政運
営の三つの基本方向である「府民安
心の再構築」、「共生社会の実現」、
「京都力の発揮」にそって活かして
いくことが必要です。

京都には、伝統・文化の力やブラ
ンド力、人材やものづくり産業、学
術研究の蓄積などの未来を創造する
力といった比類なき「力」がありま
す。本年三月には、京都縦貫自動車
道の沓掛・大山崎間が開通し、二六
年度には全線開通を迎えるとともに、
北近畿タンゴ鉄道の再生やJR奈良
線の環境整備を進めることで、府民
の皆様をさらに結集できる条件
が整ってきます。

日本全体が大きな構造変化に直面
し、未来への道筋を見いだせない今、
京都の持つ「力」を存分に発揮する
ためにも、今年の合い言葉は「オー
ル京都」でいきませんか。

この一年の、皆様のご健勝とご多
幸を心からお祈り申し上げます。

福祉事業を始めるなら

賠償責任保険は必須です!

福祉事業者総合補償制度
「まごころワイド」をおすすめします!

充実の賠償責任補償制度、
安価な傷害見舞金補償制度など
必要なプランを組み合わせてご加入いただけます。

福祉専門チームによる安心の事故対応、
京都府社会福祉協議会が提供する福祉の現場に合った内容です。

詳しい補償内容はこちらまで

福祉の保険「まごころワイド」取扱代理店

京都の総合
保険代理店 **SRM** 株式会社 エスアールエム

専用TEL **075-822-8613**

福祉の保険
ホームページ www.srm-net.co.jp/smile/

引受保険会社: 三井住友海上火災保険株式会社

この広告は保険の特徴を説明したものです。
詳しくは商品パンフレットをご覧ください。

ボランティア活動には「ボランティア保険」
イベントを開催される際には「福祉行事保険」も併せてご利用ください。

働きたい

それぞれの望みと自己実現の叶う社会へ

2012年12月1日〜2日、京都市中京区「ゼスト御池」にて、「ゼスト・ぎ・ほつとはあと〜ほつとはあと文化祭〜」が開催されました。6月に引き続き2回目の開催となった今回は、京都市内の総合支援学校2校で制作された作品・製品も含めた、多くのほつとはあと（授産）製品の実演・販売が行われました。開催会場を取材して、主催者である特定非営利活動法人京都ほつとはあとセンター副理事長の栗津浩一さんにお話を伺いました。

授産製品から「ほつとはあと」製品へ

京都ほつとはあとセンターは、京都

授産振興センターを前身組織としています。1995年4月、障害のある人たちの自立と

更なる社会参加を目的に、京都府・京都市及び府内の授産施設や共同作業所等がひとつになって京都授産振興センターが設立されました。

その後2006年2月にNPO法人の認可を受け（2007年6月、京都ほつとはあとセンターと改称）、それまで「授産製品」と呼ばれていた障害のある人たちにより作られた製品が、「ほつとはあと製品」と改められました。その名前には、「ほつとす

るあたたかさ」を感じてほしいという思いが込められています。

京都授産振興センターが設立される以前、授産製品の販売は各施設で開かれるバザーやお祭りが主流でした。授産施設や共同作業所等で働く人たちが作る心温まる製品をより多くの人に広めようと、1997年9月に京都

特定非営利活動法人

京都ほつとはあとセンター

ホームページ <http://www.kyoto-hoheart.jp/>

総務部：〒604-0874

京都市中京区竹屋町通烏丸東入
清水町375番地（ハートピア京都7階）

TEL：075-255-0355

FAX：075-255-0366

E-mail：info@kyoto-hoheart.jp

事業部：〒600-8216

京都市下京区烏丸通塩小路下ル
東塩小路町901番地（JR京都駅ビル9階）

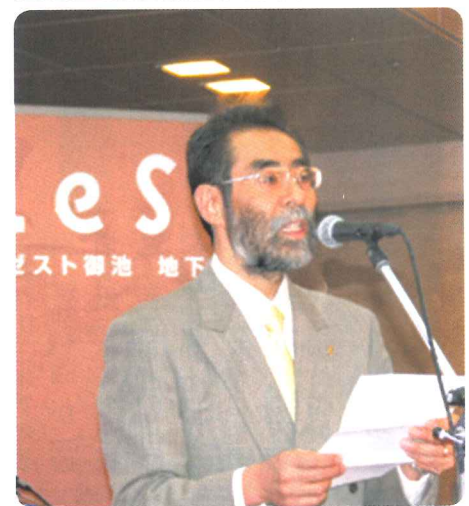
TEL：075-342-0050

FAX：075-342-0052



「ほっとはあと」というブランド品の製造・販売へ

ほっとはあとセンターの障害者施設支援事業として、会員施設に各種技能者等を派遣し、障害のある人たちが製造や販売のノウハウを学ぶという取り組みをしています。また、もともと技



術職に就いていた人たちが美術系大学の卒業生など、異分野・異業種の人たちが、施設に雇用されるということも増えてきています。このような支えにより、障害のある人たちが質の高い製品をつくる技術を身につけることで、商品としての評価が高まり、一般の商品と質の面で肩を並べる水準となって、働く人の工賃アップや地域生活の向上につながっています。

今日の国の障害者施策は、障害のある人の「一般就労」の実現を目指す、それを最大の目標としているといえます。一般就労を希望する人の願いを実現することは大切ですが、それだけでは働く力を強く持っている人だけの社会参加に限定してしまうという危険をはらんでいます。一般就

自己実現をいかに社会が支えるか

取る人の心を温めています。「ほっとはあと」というブランド品を通して、すべての障害のある人がいきいきと働くことができるよう支援しています。

はあと製品」として販売しています。製品の品質、数量や値段は施設によりそれぞれですが、それぞれの施設で働く人の思いが一つひとつの製品に込められ、手に

いは実現することは大切ですが、それだけでは働く力を強く持っている人だけの社会参加に限定してしまうという危険をはらんでいます。一般就労は難しくても、働く思いと働く力をもった人は大勢います。働く力は弱いかもしれないけれど、施設のなかで出来る仕事や取り組みもたくさんあります。それぞれの力を発

揮できる支援が必要であることは言うまでもありません。その一つとして、今回の「ゼスト・ざ・ほっとはあと」のような商業施設での販売が、心をこめた製品を通して社会とのつながりをつくり、夢を描ききっかけになっていくことを期待したいと思います。障害のある人のそれぞれの望みをどう叶えるかを考え、自己実現を支える社会が求められています。本会としても、障害のある人の夢の実現につながるよう社会への啓発活動につとめたいと思います。



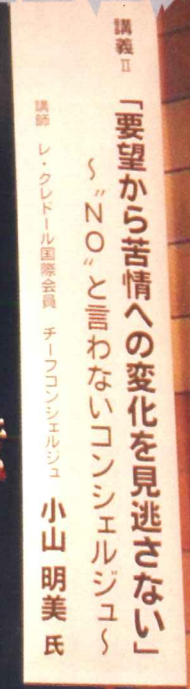
福祉サービス苦情解決事業セミナーを開催

「苦情は組織で受け止める」

福祉サービスの質の向上と安定を目標として

「措置から契約へ」と社会福祉制度が大きく変わってきた中で、府民の福祉サービスに対する考え方も大きく変化し、権利としての福祉サービス、事業者との対等な関係へと次第に変化しつつあります。同時に、事業者は福祉サービスの安定供給や質の向上を求められる時代になってきており、苦情や要望の内容も複雑

になってきています。こうした背景の中で、社会福祉法に基づく苦情受付体制は徐々に整備されつつありますがまだまだ完全とは言えません。こうした現状を踏まえ、「苦情」に対する基本的な理解と認識を深めるとともに、苦情解決体制の充実を図ることを目的に、京都府福祉サービス運営適正化委員会主催で福祉サービス苦情解決事業セミナーが11月16日（金）、



ナバーが11月16日（金）、アバンティ響都において、189名の参加者を迎え開催されました。

講義Ⅰでは京都府福祉サービス運営適正化委員会苦情解決合議体の三木秀樹委員（精神科医）が「苦情を受ける際の心構え」苦情をどのよう

に捉えるか」をテーマに「苦情は組織で対応する」など苦情解決合議体委員、



精神科医の両方の立場で講義が行われました。

また、講義Ⅱではレ・クレドール国際会員チーフコンシェルジュの小山明美氏（京都プライトンホテル）から「要望から苦情への変化をも逃さない」～「NO」と言わないコンシェルジュ」をテーマに「お客様の要望の「歩先の要望を考へる」、「ネットワークの必要性」等、福祉従事者にとっても心得る必要がある多くの事項を話されました。

京都府福祉サービス運営適正化委員会では年に2回研修会を開催しています。次回は事例検討等を行う福祉サービス事業相談研修会を2月15日に開催予定です。

お知らせ

社会福祉法第82条に基づく本会の第三者委員を以下のとおり委嘱しています。

山岸 孝啓（社会福祉士）

舟木 浩（弁護士）

夢中!・熱中!ふくしびと

～だから続けたいこの仕事～

福祉の現場で働く人たちの熱い想い・メッセージを伝えるコーナーです。京都府内で“熱い福祉”を“夢中”で実践している方々にスポットをあてて、元気や楽しさ、やりがいを“生”の声でお届けします。



プロフィール



施設名：地域密着型総合ケアセンター
きたおおじ
職 種：サブマネージャー
(介護統括責任者及び生活相談員の
役割を担っています)
経験年数：通算12年目(きたおおじでは1年目)
▼好きな言葉
他人は自分を映す鏡
▼夢中になっている事
美味しい日本酒に出会うこと

それぞれの方の暮らしに 寄り添う支援を目指して

地域密着型総合ケアセンター
きたおおじ

やすの
安野 紀子さん

2年間福祉の仕事から離れ、復帰して1年目。駆け足のように、この9か月が過ぎてゆき、今、また、この仕事に関わっている事をとても嬉しく感じています。

大学在学中に精神科病院や特養でのアルバイトを経て、特養に入職し介護をしてきました。転職となったのは、入職して3年目。当時、ご利用者の生活全体を見た時に、その方の想いと私たちの支援のずれを感じ、葛藤や違和感を抱くようになりました。外部の研修や他施設の見学に参加し、個別ケアや認知症ケアの考え方を学び、施設という環境、支援者の考え方、関わ

している仕事の役割と責任の重さ、やりがいを実感しました。その方の「暮らしに寄り添う」に、その方の「立場」に、その方の「想い」に向き合い支援をすることの大切さを改めて心に留めました。

今までの経験や、ご利用者や職員との出会いと関わり、そこで得た多くの失敗や成果の積み重ねが、今の私の土台になっていると思います。この間に、学校に通い社会福祉士の資格を取りました。きたおおじは、今年の8月に開設したところで、地域密着型特養、短期入所生活介護、小規模多機能型居宅介護、サービス付き高齢者向け住宅、地域交流サロンを併設しています。仕事内容はご

利用者、ご家族との関わりだけでなく、ご利用者の暮らしを支えるために、地域、他の機関の方と連携する機会も多く、学ぶことはたくさんあります。地域にこのような複合型の拠点があることで、お元気なころから最期の時まで、馴染みある地域と人たちに囲まれて、それぞれの方の状態や暮らしに寄り添う支援が行えたらと思います。

まだまだ、行き届かないことが山のようにあり、課題は大きいです。しかし、認知症や病気を抱えても、家で、あるいは施設で、その方の暮らしが続いていくように願って、新しい事業所と同じように夢ややりがいを持って働く職員さんたちと共に、歩みを進めていきたいと思っています。

京都府社会福祉協議会からの ご案内

ご寄付ありがとうございました 関西遊技機商業協同組合様

平成24年11月19日(月)に関西遊技機商業協同組合様より車椅子7台のご寄付をいただきました。地域福祉活動のために活用させていただきます。

ありがとうございました。

ご寄付ありがとうございました 京遊連社会福祉基金様

平成24年11月30日(金)に京遊連社会福祉基金様より500,000円のご寄付をいただきました。ボランティア振興事業のために活用させていただきます。

ありがとうございました。

京都府内地域福祉活動実践交流会IN綾部を開催します!!

テーマ

もいちどみんなで“えん”結び~見つめなおす・学びなおす・結びなおす~

日程：平成25年3月2日(土) 12:00~16:30(予定)

会場：中丹文化会館、綾部市中央公民館(綾部市)

内容：基調講演

分科会/地域福祉活動分科会/ボランティア活動分科会
当事者支援活動分科会

■問い合わせ：地域福祉・ボランティア振興課

TEL 075 (252) 6294

☆正式な開催要綱は1月初旬に市町村社協にお送りする予定です。

介護・福祉の職場に就職希望の方へ

福祉職場就職フェア京都2013 日時 平成25年2月16日(土) 10:10~16:00
場所 みやこめっせ(地下鉄「東山」駅下車)

福祉職場見学バスツアー 日時 中丹コース 平成25年3月2日(土)
丹後コース 平成25年3月3日(日)

就活学生職場体験 日時 平成25年3月4日(月)~14日(木)
場所 府内各社会福祉施設等

主催 福祉職場就職フェア実行委員会

事務局 京都府福祉人材・研修センター 075-252-6297

京都府社会福祉協議会

賛助会員募集のご案内

京都府内にお住まいの全てのみなさんが、安心して暮らせる福祉のまちづくりに向けて活動を行っています。そのためにも、教育機関や企業など幅広い団体の協力を募っております。本会の活動を支えるための賛助会員へのご加入をぜひご検討ください。

詳しくは本会までお問い合わせいただくか、本会ホームページ(京都府社協のご案内)をご覧ください。 TEL075-252-6291

▶▶ 資産評価書作成事業のご案内 ◀◀

福祉医療機構等による貸付制度を利用する際の必要書類である「資産評価書」の作成事業を行っています。詳しくは本会までお問い合わせください。

TEL075-252-6291

施設整備にかかる融資事業のご案内

社会福祉施設の新設・改修等にあたり、「施設整備等融資金貸付事業」を行っています。貸付対象は社会福祉法人です(京都市内除く)。福祉医療機構と併せての借入も可能です。

詳しくは本会までお問い合わせいただくか、本会ホームページ〔市町村社協・福祉事業者の方へ〕をご覧ください。

TEL075-252-6291

~災害時に施設を支えるために、新しいCSRの形~

「きょうと福祉救援コーポレートカード」のご案内

福祉施設や企業活動の経費(光熱水費等)をカード支払いすることで、ポイントを基金(きょうとハート基金)に積み立て、災害時の復旧支援の助成金に活用する取り組みです。

詳しくは本会までお問い合わせいただくか、本会ホームページ〔きょうと福祉パートナー事業・きょうとハート基金〕をご覧ください。

TEL075-252-6291

京都の福祉

発行所 京都府社会福祉協議会

発行人 宮本 隆司

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入清水町375

TEL 075-252-6291 FAX 075-252-6310

URL <http://www.kyoshakyo.or.jp>

「京都の福祉」へのご意見、ご感想、
とりあげてほしいテーマなどをお寄せ下さい。
表紙の写真も募集中です。(テーマ「笑顔」)

本会へのご意見等は、左記URLの
「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

